

皇國外交の指針

外務大臣 松岡 洋右

私は内外時局重大の際、剛らずも外務大臣の重責を擔ふこととなり、恐懼して居るのであります。この上は粉骨聖業を冀望し奉り、一億國民協力のもとに、新しい大東亞の建設に向つて、微力ながら努力し、國民諸君と共に現下の難局を乗切つて行きたいと考へて居ります。

未だ具體的な個々の外交方策を闡明する段階には至つて居りませんが、茲に、既に政府に於て決定した基本的外交政策の大要を述べ、今後政府の採るべき外交方針につき、國民の理解を願ふと共に、強力なる支持を得んことを熱望して居ります。

現下我が國の外交方針は、先づ支那事變處理を中心に日、滿、支をその一環とする大東亞共榮圏の確立を眼目としなければなりません。是はやがて力強く皇道を宣布し、公正なる世界平和を招來する所以でありまして我が國民と致しましては、この道程に横たはるところの有形無形一切の障礙は、斷乎として之を排除するの覺悟がなければなりません。

我が歴代内閣が、對外交方針として、支那事變の處理に關して、我が國に好意を寄せる國に對しては

友好的態度をとり、これに反する國に對しては、これを排撃する態度に出でたことは、固より、當然のことでありますが、私は更に一步積極的に我が方から進んで「友邦」を多くすることに努めたいと思ふのであります。即ち舊い秩序と觀念とに捉はれて、東亞の新事態に對し殊更に目を蔽ひ新世界の創造を妨害する諸國に對しては、あくまで斷乎たる態度を以て臨むことは申すまでもありませんが、東亞の新事態を認識し、自らも新らしき世界建設に邁進せんとする諸國とは、寧ろこちらから進んで積極的に提携を實現して参りたいと思ふのであります。

日滿支をその一環とする大東亞共榮圏の確立に南洋の含まれてゐることは言ふまでもありません。従來、我が國は歐洲戰爭に對しては不介入の方針をとつて参つたのでありますが、この方針については差當り變更を見ることは無いものと考へます。たゞ今後の形勢如何に依つては、これを放棄するの已むなき事態に立至ることも豫想されるのでありまして、従つて我が國の外交方策はあくまで國際的大變局を達觀し、建設的にして、彈力性ある施策を講じなければならぬのであります。

以上の如く現下我が國の外交は、支那事變の處理を中心とした大東亞の建設を根幹とし、他の同調の諸國と相携へて、各國民、各民族が各、その所を得るやう、公正なる新世界の創建に資するやう實行されなければならぬのであります。この大目的達成のため國民諸君は、更めて「外交は力である」ことをはつきり自覺され、速かに國內體制を一新し、國防國家の完成に最大の力を致されるやう望んで止まない次第であります。